

2 - 1 重点事業評価

事業名

子ども・青少年・子育て世代など次世代を担う利用者層の一層の拡大

(1) 事業の概要

- 対象（誰を・何に）
子どもや中・高校生、更に子どもと一緒に来館する子育て世代の親などの次世代を担う利用者層
- 意図・目的（どのような状態になることを狙っているのか。結果どうなるのか。）
①子どもや中・高校生などの若者、子育て世代を利用者層として定着する。
②子どもから親世代までが緩やかに共存し、一体的な利用を可能とする。
③従来のやや高度な専門的図書館機能に加え、日常生活に役立つ図書館としての機能を充実させる。
- 具体的取り組みの概要
①引き続き「こども図書室」や「ユースコーナー」を設置する。特に「こども図書室」に専任のスタッフ（保育士など）を配置し、子ども向けイベントを実施する。
②「くらしガーデン」では、子育て支援資料や実用書などを、引き続き整備していく。
③「くらしガーデン」「CDコーナー」「文芸ベストセラー」「ユースコーナー」「こども図書室」が設置されている図書館入口付近は県立図書館の新しいイメージとして親しみのある場所とする。

(2) 指標（本年度の目標）

項目（指標）	本年度の達成目標（数値）	成果
新規コーナー（「こども図書室」「ユースコーナー」「くらしガーデン」「CDコーナー」「文芸ベストセラー」「第2のオフィス」）の合計貸出冊数	年間120,000冊 （全体の約4割）	年間183,759冊 （全体の58%）

(3) 事業評価（自己評価）

自己評価	A	目標以上の成果を得られた。このコーナーが図書館全体の活用への導入効果もあり、全館に活気があることは、期待以上の成果である。
------	---	---

A 目標が十分に達成された B 目標がある程度達成された
C 目標の達成が不十分である D 目標を達成することがほとんどできなかった。

項目	項目の解説	状況
必要性	利用者ニーズまたは図書館の使命や方針に照らして、妥当か	昨年度の貸出数83,621冊から、大きく増加していることから、利用者の支持を得ていることがわかる。利用者層の偏りが解消されつつあり、図書館の使命や方針に照らし妥当である。
有効性	期待される成果と実際の成果との関係。実績の向上がみられたか	本年度の達成目標を6万4千冊上回る183,759冊の貸出があり、期待以上の成果が得られた。
効率性	事業計画に対する内容や量、業務の運び方、進捗管理の妥当性等	12月13日に「くらしガーデン」「第2のオフィス」コーナーの再リニューアルを行い、棚の増設や配置資料の充実を計画的に行った。

(4) 次年度の展開

方向性・問題点・改善点など

今後も「新しい情報」の提供に留意しながら、利用者の支持を得られる水準を維持したい。

(5) 図書館協議会意見

協議会委員は一致して本事業の意義と成果を高く評価する。

次世代を担う利用者の拡大を図ることは、将来の図書館の利用者層を育てることにつながることから、本事業の目標設定は適切である。

利用者の支持を得て、当初の目標値をはるかに上回る成果をあげ、図書館を生活の中にといいねらいは十分に達成されたと考える。利用者の裾野を広げ、“高度な図書館”というイメージから、入りやすい図書館へとイメージが変わってきている点を評価したい。

一方、県立図書館の目標設定の中で、本事業の位置を再定義し、明確にすべきである、との意見が複数の委員から出された。すなわち、利用者の裾野を広げる一方、県立図書館ならではの調査機能の充実にも努めてほしい、他のサービスとのバランスを考慮して目標値を設定してほしい、人員や予算の充実につなげてほしい等の意見があった。また、利用者の側から、図書館の活用や読書の魅力について発信してもらおう仕掛けがあるとよい、という提案があった。